

# 令和2年度岩手県農政審議会生産流通部会 会議録

日時 令和3年2月12日(金) 14:30~15:30  
場所 岩手県産業会館5号会議室

## 1 開会

## 2 議事

### (1) 部会長及び副部会長の選任について

部会長に八重樫徹委員が、副部会長に塚本知玄委員がそれぞれ選任された。

### (2) 岩手県果樹農業振興計画について

佐々木誠二農産園芸課総括課長が、資料1、資料1-1、資料1-2、資料1-3により説明。

質問・意見等はなし。

### (3) 岩手県酪農・肉用牛生産近代化計画について

米谷仁畜産課総括課長が、資料2、資料2-1、資料2-2、資料2-3により説明。

質問・意見等はなし。

## 3 報告事項

### いわてのお米ブランド化生産・販売戦略ビジョン(仮称)について

佐藤実県産米戦略室県産米戦略監が、資料3により説明。

#### 【質問・意見等】

##### ○佐藤崇史委員

資料の戦略3、4の「これまでの取組」のところで、作付面積や伸び率、認知度の数値が「金色の風」「銀河のしずく」まとめ出てくるが、分けて整理したほうがいいのか。

なぜなら「金色の風」「銀河のしずく」それぞれ産地も分けてあり、それぞれの特徴がより分かったほうが良いということと、また、「銀河のしずく」に関しては県南部の中山間地域でも取組が始まっており、「銀河のしずく」のほうがこれから伸びてくると想像している。また直播の適性があるというところで、まだ認められてはいませんが、標高制限の解除を求める生産者は県南部の平場には数多くいるということ。

また農家の皆さんが実際に食べても、「銀河のしずく」の食味のほうが良いというよな、ぱっと見白いというものもあるので、贈ったときに喜ばれるというのが一番大きいのだと思う。私個人は「金色の風」のほうが好きだが。そういうところでセットで事業をしていくのはいいが、データは分けたほうが良いと思っている。

また、できれば平場でも「銀河のしずく」を作ればありがたいなと思っている。

##### ○佐藤実県産米戦略室県産米戦略監

指標を分けてはどうかということについて、委員のおっしゃるとおり「銀河のしずく」は急激に伸びており、「金色の風」は値段が高く、ターゲットを絞って推進しているため、面積はあまり伸びていないというのが実情となっている。

そこで、2つ一緒にデビューしたオリジナル品種ということで、合わせてやってきて

いるところだが、委員の御指摘も踏まえて、再度検討をさせていただきたいと思う。

また、平場でも「銀河のしずく」ということについては、いろいろと適地の条件をつくっており、直播もやっていくとなると、直播と普通の移植では体系も違うので、その辺については検討させていただきたいと思います。

#### ○佐藤崇史委員

「金色の風」については、ターゲットを絞った販売というところで、特Aを狙っていかないのかという疑問がある。流通量の違いはあるが。私たちも米の生産者として販売先にPRで立つこともあるが、「銀河のしずく」のほうが特Aで「金色の風」は特Aではないのとはよく言われて、どうしても特Aというのが表にどんと出てしまうので、何か対策があればいいと思っている。

#### ○佐藤実県産米戦略室県産米戦略監

穀物検定協会の特Aを認証しているが、基準があり、ある程度の面積以上でないと出品できないことになっている。「金色の風」はその面積に到達しておらず、出品する条件をクリアしていない部分があり、特Aに出していないという経過がある。今後、「金色の風」が面積拡大した際には、穀物検定協会に評価していただくこととしている。

#### ○佐藤崇史委員

そのことは、私たちは知っているが、一般消費者は知らないので、早く面積が増えて出せるようになるのが一番いいのだが、「金色の風」は一流ではないとイメージされる方もいらっしゃるのでは、気をつけたいなと思っている。

#### ○藤代克彦農政担当技監兼県産米戦略室長

今委員から、作付条件の緩和といったようなお話があったが、特に「銀河のしずく」については、悩ましいと思っている。平成28年から作付を開始し、作付条件を付して、あるいは作る人を募集しながらやってきたところであり、その結果品種としての特性とおいしさ、品質がリンクして非常に高い評価をいただいている。そういう条件を付したのがために、達成できた部分でもあり、もう少し定着してからでないと、おいしさがそれだけでなくというわけではないが、消費者からどのように受け入れられるかは、まだ見えにくいと思っている。

事務局でも、例えばタンパク質含量の基準値、あるいは作付の条件をどうするかという議論をまだしている最中であり、明確にいつから解除する、あるいは解除する方向でいるというのは、今時点では決めかねている。

## 4 その他

### 【質問・意見等】

#### ○渡邊るみ委員

果物、肉、米を問わず、最近すごくSDGs、持続可能な取組というのが注目されている中で、そのような文言がどこにもないが、そういう取組については何か念頭に入れているとか、今後やっていかなければいけないという認識であるとか、県のお考えはあるか。

○藤代克彦農政担当技監兼県産米戦略室長

国連が設定した持続可能目標のSDGsについては、県としても推進するスタンスであり、「いわて県民計画」や「ふるさと振興戦略」などで謳っている。

どちらかというとい総務省系の交付税に該当する計画で、施策単位毎に、例えば「農業系であればSDGsの何番の推進に合致する施策である」というように位置づけて推進している。

それぞれの計画に、SDGsのどこにつながっていくという記載はしていないが、そういったパッケージといいますか、そういった形で整理をして進めている。

○渡邊るみ委員

それでいいと思う。

今回、記載がなかったのも、考えていないわけではないだろうとは思ったが、私自身もあまり詳しくは言えないが、国が絡む海外の事業をやっている中で、自分たちの事業がSDGsのどの項目に当てはまっているのかがすごく問われて、実際に面談でもそこをすごく突かれてくる状況となっている。

そのため、物すごい勢いで世界のルールが変わってきていて、特に食べ物関連だとGAPの取得はもちろん、GAPを取った上でSDGsのどれに自分たちの社会活動が貢献しているかをすごく問われる時代になってきた。

物とお金と配慮がどんどん積み重なってしまっているのを日々感じているので、そういう準備とか、用意、心構えをしていないと、突然そんな対応はできないだろうと思ったので、一応確認させていただいた。

## 5 閉会